

令和6年度 学校評価報告書【国立市国立第三中学校】※学校運営協議会の承認を経て、下記の通り教育活動を行う。

学校教育目標	◎ 自ら考え正しい判断のできる人 ◎ 思いやりの心をもって助け合う人	○ 強い意志をもって実行できる人 ○ 心身を鍛える人	重点目標	「自ら考え正しい判断のできる人」、「思いやりの心をもって助け合う人」
--------	---------------------------------------	-------------------------------	------	------------------------------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校運営協議会委員評価
					中間評価	最終評価			
・ 自ら考え正しい判断の できる人	深く考える生徒の育成	主体的に学び、深く考える機会を意図的・計画的に設定し実施していく。	・「主体的・対話的で深い学び」による授業の充実 ・考えを深めるための課題設定と発問の工夫 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実 ・教員相互の授業観察	・生徒による授業アンケートの数値向上 ・毎時間、「本時のねらい」を明示、授業の最後に「本時の振り返り」を確実に行う。 ・生徒が考えを深めることができる学習課題の設定と発問の工夫を行っているか。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を活用した指導を構築する。 ・教員相互の授業観察を年3回行う。 ・令和5・6年度国立市教育委員会研究奨励校 校内研究テーマ：『深く考える生徒の育成』～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して～ ・各教科及びSDGs学習に特化した校内研修会を年12回実施(大学教授、JOCA等を招聘)	B	A	・生徒による授業アンケートの結果から、成果は教員の日々の授業改善及び研究への取組が数値に表れている。課題は生徒が興味・関心をもちにくい単元等において授業展開をより工夫する必要がある。 ・全ての教科において、三中授業スタンダードを実施している。「本時のねらい」を明示し、授業の最後に「本時の振り返り」を行う授業形態はほぼ定着している。 ・管理職による授業観察及び教員の授業相互参観を年3回実施した。 ・研究発表会(2月7日)は、スケジュール通りに準備を進めることができた。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通じた授業改善に取り組んだ。その結果、生徒の主体性や思考の深まりが確認されるなど、大きな成果を得ることができた。一方で、生徒が学びの成果を実感できる振り返りの工夫や、「学びの手段」と「目的」の明確化といった課題も残った。 ・各教科及びSDGs学習に特化した校内研修会を年12回実施(大学教授、JOCA等を招聘)し、計画通りにすべての研修会を終了した。	・授業アンケート結果を活用して、授業改善及び研究に取り組む。 ・三中授業スタンダードを定着させ、個々の生徒の学力向上に向けて「わかりやすいねらいの提示」、「課題設定・発問の工夫」、「振り返り・まとめ」の更なる改善に取り組む。 ・授業観察及び教員の授業相互参観においても、引き続き「個別最適な学び」及び「協働的な学び」を取り入れた授業実践を行い、「深く考える生徒の育成」に向けた課題設定や主発問の工夫を追求する。 ・今後も研究を継続し、「深く考える生徒の育成」に向けて全教員で取り組んでいく。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を活用し、個々の生徒の学力向上や子ども達の学ぶ力を育てるための取組が、多角的に行われている。 ・日々の取組が、学力向上につながると良い。
			・各教科で身に付けた力を生かす問題解決的な学習活動 ・GIGAスクール構想の具現化に向けたICT機器の活用 ・持続可能な社会の創り手となる生徒の育成を目指すため、SDGsの校内研修会を実施	・教科等横断的な取組 ・一人一台タブレット端末の効果的な活用 ・「SDGs三中プログラム」の学習を通し、持続可能な社会づくりに向けて考えることができたか。	B	A	・年間指導計画にSDGsの目標を明記し、教科等においてSDGsの項目を指導している。 ・教員はタブレット端末のスキルを身に付け、生徒は、ほぼ毎日タブレット端末を活用している。 ・SDGs三中プログラムを全学年で取り組んでいる。(1年：グループ学習[目標11] 2年：グループ学習[職場体験学習との関連] 3年：個人研究)	・SDGsの項目を意識しながら教科横断的な学習を推進する。 ・教員のタブレット端末のスキルをより一層向上させる。生徒には、効果的にタブレット端末を活用させる。 ・SDGs三中プログラムを全学年で活用し、持続的な社会づくりに向けて考えていく。	・SDGsの学年ごとの設定がとても素晴らしい、各学年で学ぶことをしっかり修得している。 ・SDGs三中プログラムを継続して取り組んでほしい。 ・SDGs学習は、1年生の時から活動している事もあり、3年生の知識や考察力は素晴らしいと思った。
		個に応じた指導を充実させ、知識・技能の習得を図る。	・習熟度別授業(数学) ・少人数授業(英語) ・補充教室、質問教室の実施 ・スマイルスタッフ、特別支援教室「かがやき」との連携	・効果的な習熟度別授業、少人数授業の実施 ・補充・質問教室の実施、生徒の参加促進 ・SS、特別支援教室専門員、特別支援教室巡回指導教員との連携による個別指導の充実	A	A	・習熟度別授業、少人数授業は、生徒の実態に合わせて実施している。 ・定期考査前の質問教室を全学年で実施した。 ・夏季補充教室は、外部人材(講師・高校生ボランティア)を活用しながら、全学年で実施した。 ・スマイルスタッフ、特別支援教室「かがやき」巡回指導教員及び専門員、スクールカウンセラーと連携しながら、特別支援教育を推進している。 ・生徒によっては、全教員で対応方針に関する共通理解を図り、個別支援をしている。	・生徒の授業評価、少人数指導アンケート等客観的資料に基づく分析を定期的にを行い、より適切な少人数編成等に生かす。 ・習熟度別授業や少人数授業は、生徒の実態に合わせて効果的に実施する。 ・毎月1回開催する特別支援委員会を充実させ、最善策を検討する。関係教員等との連携を密にし、個別指導の充実に努める。 ・生徒の対応方針は、状況を踏まえて追加・削除・変更する。	・充実した取組がなされていると感じる。 ・多様な人材を活用しながらも、学習の強化をしている。 ・生徒一人一人に対しての対応がとても手厚い。
・ 強い意思をもつて実行 ・ 助け合いの心をもつて ・ 励まされ、励み返しを ・ 自己実現に努める ・ 自ら考え、自ら行動する	・ 励まされ、励み返しを ・ 自己実現に努める ・ 自ら考え、自ら行動する	いじめ・不登校傾向の早期発見と早期対応	・校内いじめ防止対策委員会を毎月開催する等、いじめ及び不登校未然防止と迅速な対応 ・生徒によるいじめ防止活動(スクール・パディの活動) ・校内別室支援室、子どもと家庭の支援員、スクールソーシャルワーカーとの連携 ・学校生活満足度(QU)調査を5月と10月に実施、これを踏まえた校内研修会を6月と11月に実施	・いじめ重大事態を出さない。 ・生徒一人一人のニーズに応じた多様な学びの場を提案することで不登校ゼロを目指す。 ・いじめ・からかいアンケート及び学校生活満足度(QU)調査、日常の生徒の言動から、いじめ認知をすることができたか。 ・深刻ないじめがなくなったか。 ・SNS家庭ルールの100%設定	B	B	・2月28日現在、いじめ重大事態は発生していないが、学校生活において認知されたいじめの件数は14件であり、悪口やからかい、人の嫌がる言動は依然として見られる。 ・不登校傾向等にある生徒に、生徒一人一人のニーズに応じた多様な学びの場として、校内別室支援室、教育支援室、自宅学習等を提案している。一人一人が今できる中で懸命に努力をしており、そのことを学校として認めて出席としている。2月28日現在、不登校生徒は11名である。 ・10月のQU結果は、1年「教師との関係」2年「教師・学級との関係」3年「友人・教師・学級との関係、進路意識」が全国平均より特に高かった。 ・夏休みにSNS家庭ルールの宿題を出して、家庭ルールの設定を促した。家庭ルールの設定率は98.4%であった。	・毎月1回開催する校内いじめ対策委員会を軸とし、情報共有と共通理解、対策・検討を綿密かつ確実に行う。軽微ないじめ案件を見逃さず、早期対応・早期発見につながる個々の指導力及び組織対応力の質をさらに高めるよう校内研修等を充実させる。 ・不登校傾向等になる生徒に、多様な学びの場を提案しながら、不登校ゼロを目指す。 ・スクール・パディを通じた生徒主体のいじめ防止活動をさらに充実させられるよう、指導・助言を行う。 ・QU結果を活用し、生徒の気持ちを理解するとともに、よりよい学校・学年・学級づくりを推進し、学校生活の向上に活用する。 ・SNSのフィルタリング率は87.9%であった。今後100%を目指す。	・「多様な学びの場」「集団での学ぶ場」は、子ども達の進路に影響してくる学び方だと感じる。 ・情報共有、共通認識をもつことが大切になると思う。思いやりの心を養ってほしい。 ・子から親へのフィルタリングは、いいと思った。すべて防げるわけではないが、なぜフィルタリングが必要なのかを考える機会にしてほしい。 ・個別対応の教室を設けることによって不登校の生徒が少しでも学校に通い、学ぶことができるようになった。 ・学校全体で、子ども達に向き合っている様子が感じられる。
			・特別の教科 道徳の授業を要としたこころの教育の充実 ・フリンクルーム教育の実現を目指す。	・教科書によって計画的に行う「考え、議論する」特別の教科 道徳の授業の充実 ・道徳授業地区公開講座の活性化 ・令和5・6年度国立市教育委員会研究奨励校 校内研究テーマ：『深く考える生徒の育成』～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して～ ・道徳科に特化した校内研修会を年3回実施(大学教授を招聘) ・全教員によるローテーション授業の実施 ・生徒一人一人が自分らしくいられるために、通常級においても特別支援教育を推進し、思いやりの言葉が飛び交う雰囲気醸成する。	B	B	・道徳科に特化した校内研修会を3回(講義、研究授業)行った。講師として大学教授を招聘し、道徳教育への理解を深め、授業力の向上に努めた。 ・学年の全教員がローテーションで道徳の授業を行い、授業力向上に努めた。 ・道徳授業地区公開講座を終えて、道徳通信を11月に発行した。本校における道徳教育及びオリ・パラ教育を保護者に周知した。 ・生徒一人一人が自分らしくいられるために、通常級においても特別支援教育を推進し、思いやりの言葉が飛び交ったり、助け合ったりする雰囲気醸成している。事が起きた際には、すぐに情報共有を行い、養護教諭や特別支援教員、スマイルスタッフ等とも連携をとりながら支援・指導を行っている。	・道徳講師の指導・助言を踏まえ、協働的な学びを通して深く考える生徒を育成する。教員が道徳の授業を相互参観及びローテーションすることで授業力の向上に努める。道徳教育を一層充実させ、学校、家庭及び地域社会が一体となって子供たちの豊かな心を育むことを目指す。 ・タブレット端末とワークシートやノートを併用しながら、生徒の本音を大切にした指導を心がける。 ・生徒一人一人が自分らしくいられるために、引き続き、通常級においても特別支援教育を推進し、思いやりの言葉が飛び交ったり、助け合ったりする雰囲気醸成する。	・「自分らしくいい」という気持ちを育てる取組はとても良いと思う。子ども達が「自分らしく」を認知でき、大切にできるようになると学校の雰囲気はより一層よくなると思う。 ・豊かな心を育むことを大切に、引き続き向上に努めてほしい。 ・生徒一人一人の困っている事などにすぐに対応し、助言してもらっているため、不安なく過ごせている雰囲気を感じる。
		豊かな心を育む教育活動	様々な、生徒の主体的な活動実施	・主体的な生徒会活動の継続(あいさつ運動、いいことしようDAY、新入生説明会、生徒総会、部活動対抗駅伝等) ・スクール・パディ活動の充実 ・SNS三中ルールの継続と改訂、周知の工夫 ・校則の見直し ・カジュアルウィークの実施 ・定期考査前の自習室開放 ・地域学校協働活動推進委員との連携による三中カフェ(MyHA*RU：マイハル)の開設(6月から開設予定)	A	A	・生徒会本部を中心にボランティア活動を実施している。 ・6月に校則検討委員会を立ち上げ、全生徒の意見を集約した。見直しが必要な校則を精選・検討し、10月8日に検討委員長から校長へ改定結果を報告した。10月21日の生徒会朝礼で全校生徒に生徒会長から見直し項目を報告し、10月22日に新校則を施行した。 ・定期考査前に自習室を開室した。毎回約40名の生徒が利用した。 ・生徒会主催で地域学校協働活動推進委員との連携による「三中カフェ」を1学期の期末前、夏休み前、2学期の中間・期末定期考査後、3学期の学年末後に実施した。毎回約80名の生徒が、本を読んだり、宿題をしたり、友達と話をして放課後の居場所として利用した。	・引き続き、パディラジの実施、パディ新聞の充実、動画作成等、スクールパディ定例会で話し合いながら、いじめ防止に取り組む。 ・カジュアルウィーク・校則の見直しは、毎年継続する。 ・次年度も「三中カフェ」を実施する。	・校則の見直しは、子ども達が主体となり、取組やすいものになっている。自分たちで考え、行動し、結果が目に見えて分かる、という一連の流れは大きな学びになる。 ・生徒自身が考え、話し合えるのがすごく良い。 ・三中カフェでは、予想以上の参加者もあり、飲み物の確保など先生方の工夫も分かった。感謝します。生徒会の子たちが生き生きと活動している姿が他の子へも良い影響となっている。
心身を鍛える人	自らを磨く生徒	豊かな人間性を育む活動	キャリア教育の充実	・進路指導の充実 ・模擬面接実施(立川青年会議所等、地域人材活用) ・地域学校協働活動推進委員との連携による職場体験学習の実施(2年)	B	A	・「進路だより」や学年・クラスでの進路指導等を通して、進路への意識を高め、全員の志望校を決定させた。9月に上級学校の先生の話を聞く会を実施し、11月に立川青年会議所と連携して模擬面接を実施した。12月は管理職による面接練習を実施した。都立第二次募集の合格発表は3月14日に行われる。 ・地域学校協働活動推進委員との連携により、32の事業所において職場体験学習を10月末から3日間実施した。	・学年全体で進路指導の充実を図り、全員の進路決定を目指す。 ・職場体験学習で学んだことをSDGs学習に生かす。	・職場体験が学びの場である、という認識を事前学習でもつこと。希望した職場でなかった場合でも意欲的に取り組む。主体的に学んでほしい。 ・進路や社会活動の意識が高められた。 ・体験したことや学習に生かされたことは、しっかり心に残る。
			地域や外部協力者と連携した教育活動	・国際交流(1年)・セーフティ教室 ・租税教室(3年) ・SDGsの取組(全学年、全教科)	B	A	・「SDGs三中プログラム」に基づいて、全学年で取組を進めた。3月8日の学習総合発表会で、各学年の代表生徒がSDGsに関する発表を行った。	・「SDGs三中プログラム」に基づき、発達段階に合わせた学習を行う。 ・次年度のセーフティ教室で、闇バイト防止に関する講演を取り入れた。	・体験教室等を通じて意識づけにつながると良い。 ・校外学習はいい経験なので楽しんでほしい。
		体験的な学習の充実	・修学旅行(3年) ・職場体験学習(2年) ・校外学習(1年、2年) ・自然体験教室(1年スキー教室)	・修学旅行(3年) ・職場体験学習(2年) ・校外学習(1年、2年) ・自然体験教室(1年スキー教室)	B	A	・1年生において1月に2泊3日でスキー教室(新潟県湯沢方面 岩原スキー場)を実施した。2学年において10月末から3日間32の事業所において職場体験学習を実施した。1月24日に班行動を中心とした校外学習(鎌倉方面)を実施した。3学年において5月に2泊3日で修学旅行(奈良・京都)を実施した。	・「活動あって学びなし」とならないよう、学習のねらい、過程、振り返り等、活動の意義を明示し、理解させた上で指導を継続する。	・仲間と協力する、という貴重な経験の場となるので、「楽しかった」と思えたら、その理由をしっかりと考えてもらえるといい。楽しかった以上の学びも身につくと思う。
心身を鍛える人	自らを磨く生徒	学校2020レガシーの構築	・オリンピック、パラリンピアンによる講演会の実施(1回) ・車いすバスケットボール体験 ・東京グローバルゲートウェイ(TGG)の活用(1年)	・オリンピック、パラリンピアンによる講演会の実施(1回) ・車いすバスケットボール体験 ・東京グローバルゲートウェイ(TGG)の活用(1年)	A	A	・7月にパラリンピアンを招聘し、車いすバスケットボール体験を実施した。 ・道徳授業地区公開講座で、ゴールボール金メダリスト日本代表の方の講演と実技体験会を全校で行い、東京2020のレガシー継承に役立った。 ・1年生は校外学習として10月に体験型英語学習施設「TGG」をし、英語をもっと上手に話したいという意欲を高めた。	・体験活動をより充実させる為に、事前学習をよりよいものにして、生徒の意識をより高めさせた上で体験につなげていく。	・意識を高める体験は大切にしてほしい。 ・貴重な体験をすることができ、いろいろな目線で学習を深めることができた。

達成状況の指標 A: 100%～80% B 80%～50% C 50%～0%